

国語科単元計画

授業者：齋藤 理恵

対象（場所）	1年9組（1年9組教室）	令和7年11月14日（木）
単元名	共に生きる 鷲田 清一「真の自立とは」	
単元の目標 （単元で育成する資質・能力）	<ul style="list-style-type: none"> * 「自立」の在り方について考察する評論を読み、自分の考えを深め、視野を広げる。 * 多様な意見に触れ、それぞれの主張を検討したうえで、自分の意見を深めていく。 * 筆者が定義する「自立」を、実生活に置き換えて考える。 	
教材	東京書籍 精選現代の国語	

具体的な評価基準（批判的思考力、協同的思考力）

6つの力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度
S 未来を構想する	「自立」という言葉を、一般的な意味とは違った視点で定義し直すことで、人間がこの世界に生きるということの基本的な意味が理解できた。	現代社会の様々な局面における「生きづらさ」の問題を根本から解決する道を探ることができる。	自分自身の「自立」の在り方について考えを深め、他者との関係構築の在り方や多様化していく現代社会について考えを深めることができる。
A 利他的に概念を使う	「自立」という言葉を、一般的な意味とは違った視点で定義し直すことで、自分が将来、他者とどう関わりながら生きていくべきか理解できた。	現代社会の「生きづらさ」の問題を解決する道を探ることができる。	自分自身の「自立」の在り方について考えを深め、他者との関係をどう構築すべきか考えを深めることができる。
B 利己的に概念を使う	「自立」という言葉を、一般的な意味とは違った視点で定義し直すことで、自分自身がどのように自立していくべきか理解できた。	自分自身の「生きづらさ」の問題を解決する道を探ることができる。	自分自身の「自立」の在り方について考えを深めることができる。
C 知るのみ	「自立」という言葉を、一般的な意味でのみ、理解している。	「生きづらさ」についてのみ考えることができる。	自分自身の「自立」について考えを深められない。

本質的な問い

人間は孤立して生きていくことはできない。複雑・多様化していく現代社会において、自立しながら他者との関係をどう構築し、どう保っていけばいいのだろうか。

単元計画

時	学習内容	評価内容と方法	知識・技能	思考判断 表現	主体的態度
1	1.自分の考える「自立」の定義を他者と共有し、批判的思考で検討する。 2.現代社会における「できる」「できない」の構造と、それが人生に及ぼしている影響について読み取り、まとめる。	1.文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 2.「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	
2	「自立」について、現代社会で混同して使われている「独立」という言葉の違いも踏まえて読み取り、まとめる。				
3	現代における「古い」や「『大人』になること」について、筆者の言う「自立」という観点から考え、話し合う。	現代の状況に関心を持ち、筆者が述べる内容を理解し、自分の考えを深め、「自立」という観点から考え、他者と話し合う。		○	○
4	【読み比べ】 1.松井彰彦「自立と市場」を読み、筆者の主張する「自立」についてまとめる。 2.「真の自立とは」で鷲田清一氏が主張する「自立」と比べ、共通点について話し合い、まとめる。	1.「読むこと」において、要旨や要点を把握する 2.多様な意見に触れ、それぞれの主張を検討したうえで自分の意見を深める。 3.大学受験で読み比べの学習が <u>使える</u> ことに気づく。	○	○	○
5	【単元振り返り】 1.辞書的、自分自身、鷲田氏それぞれの「自立」の定義を確認する。 2.相互依存のネットワークを起動した例を共有する。 3.再度「自立」について考える。	自分の <u>実生活</u> で筆者の定義が <u>使えている</u> か自己を振り返り、他者と話し合う。		○	○

○見取り・・・見えるもの 生徒の変化など

◎評価・・・見るべきもの＝形成的評価 抽出・直感で可

◇評定・・・説明責任にも活用 記録に残す評価 根拠

授業指導案

本時の目標 (5/5)	読み比べを通して多様な意見に触れ、「自立」について考えを深める。筆者の「自立」の定義（相互依存）が実生活で重要であることを知る。 読み比べの学習が大学受験で活用できることに気づく。
----------------	---

本時の流れ			評価方法 ○見取り ◎評価		
過程	学習活動	指導上の留意点	知識 技能	思考判断 表現	主体的 態度
(1) 導入 5分	(1) 「自立と市場」内の熊谷氏の「自立」の定義を確認する。	(1) 「自立」に関する他の本についても読んでみることを勧める。	○		○
展開 (2) 10分 (3) 10分 (4) 15分 (5) 7分	(2) 「自立」の辞書的意味、自分自身、鷲田氏それぞれの「自立」の定義を確認する。 (3) 自分自身が、相互依存のネットワークを起動した例を振り返り、他者と共有する。 (4) 再度「自立」について考えをまとめ、他者と話し合う。 (5) 他のグループの発表を聞く。	(2) 期末テスト範囲なので、確認をしっかり行う。 (3) 気づかないうちに、実生活において相互依存を起動していた（自立できている）ことに気づかせる。 (4) 導入時の「自立」と考え方が変化したかどうか確認させる。 (5) 多様な意見に触れる重要性に気づかせる。	○	○ ◎	○ ◎
(6) まとめ 3分	(6) 本時の目標を聞き、達成できたか、確認する。	(6) 多様な意見に触れ、それぞれの主張を検討した上で、自分の意見を深めていく習慣の重要性に気づかせる。		○	○

○見取り・・・見えるもの 生徒の変化など

◎評価・・・見るべきもの＝形成的評価 抽出・直感で可

◇評定・・・説明責任にも活用 根拠